

根管治療における診査診断

演題
エンド治療に必要な
画像診断のポイント
について

橋爪 英城 先生

TEAM 東京 橋爪エンドドンティクス
デンタルオフィス 院長
日本歯科保存学会 歯科保存治療専門医
AAE specialist member



演題
歯内療法における
デジタルレントゲンと
CBCTの有用性

浅井知宏 先生

東京歯科大学歯学部卒業
日本歯科保存学会 専門医
日本歯内療法学会 専門医 指導医
日本顕微鏡歯科学会 認定医



配信期間

2024

12/20^金

2025

~1/26^日



受講料 無料

定員 500名 抄録はウラ面をご覧ください

お申込み

ヨシダのホームページよりお申込みください。

スマホからはQRで簡単アクセス▶

ヨシダ



<https://www.yoshida-dental.co.jp>



お申込みから受講までの流れ



ヨシダホームページより
お申込み
※G-PLUSへの会員登録が必要です。



ご登録のアドレスへ
セミナー視聴用URLが
届きます



開催日時になったら
PCや携帯からセミナー
視聴用URLにアクセス

※受講の際はスピーカーではなく、ヘッドセットやイヤホンのご使用をお勧めします。

※通信不具合によりご参加・ご視聴いただけない場合の保証はできかねますので、予めご了承ください。

ご提供いただいた個人情報につきましては、弊社事業に関する情報、製品に関する情報の提供等、弊社インターネットホームページに掲載した個人情報保護方針「利用目的」の範囲内で利用させていただきます。

セミナー内容についての
お問い合わせ



株式会社 **ヨシダ**

画像・CAD/CAM部 (担当: 鈴木)
TEL.03-3845-2925 (平日 10:00-17:30)

G-PLUS会員登録や
セミナー受講方法の
お問い合わせ

g-plus@yoshida-dental.co.jp

※メールでの受付・回答のみとさせていただきます。
※お問合せは順次対応させていただきますが、状況により回答
までお時間をいただく場合がございます。予めご了承ください。

演題・抄録

エンド治療に必要な画像診断のポイントについて

近年、歯科用コーンビームCT（CBCT）は歯科用マイクロスコープやNiTiロータリーファイルと並んで3種の神器と言われ、近代歯内療法学における診査診断においては欠かせない存在となりつつある。特に歯根や根管の解剖学的形態は複雑なため口内法X線検査のみでは確認できない盲点と限界がある。そのため同検査で異常所見が認められないにも関わらず患者の主訴の原因が解明できない時はCBCT検査が不可欠となる。特にアーチファクトやノイズを取り除くシステムの開発によって、根管の細かな側枝や副根管、骨透過像などを鮮明に観察することも可能になった。そこで本セミナーでは、口内法X線とCBCT画像を中心に、エンド治療に必要な診査・診断のポイントについて解説を行う。

橋爪 英城 先生

TEAM 東京 橋爪エンドドンティクス
デンタルオフィス 院長
日本歯科保存学会 歯科保存治療専門医
AAE specialist member



歯内療法における デジタルレントゲンとCBCTの有用性

歯内療法を行う際は口腔内X線画像が必須であり、その画像のクオリティーの良し悪しで診断が変わる可能性があり、治療に影響が生じることとなる。15年ほど前にアナログフィルムを使用していた時代からデジタルX線フィルムのスキャナーであるVistaScan Mini Viewに替えてからは、安定的に高画質の画像が得られ、その解像度の違いが明らかであった。さらにデジタル化したIPは短時間でスキャンされ、状態を確認でき、すぐに再使用できるため、ファイルやメインポイントの試適時ではラバーダム防湿をした状態での撮影でも患者の待ち時間を短縮することが可能となった。しかし、レントゲン画像では3次元的に根管形態を描写することが出来ないため、近年の歯内療法では歯科用コーンビームCT（CBCT）が必須といえる。現在、使用しているトロフィーパンスープリーム3Dは、小範囲での撮影が可能であり、またメタルアーチファクト軽減機能（MAR）搭載されていることにより、より鮮明な画像が得られるようになった。今回は、歯内療法におけるVistaScan Mini Viewとトロフィーパンスープリーム3Dの特徴・有効性を解説していきたい。

浅井知宏 先生

東京歯科大学歯学部卒業
日本歯科保存学会 専門医
日本歯内療学会 専門医 指導医
日本顕微鏡歯科学会 認定医

